

# 長びく不況、すすむ雇用破壊 —デフレ克服なくして再生なし— 2002～2003年度・経済情勢報告

---

## 「2002～2003 年度・経済情勢報告」

経済情勢報告は、連合総研が、毎年1回、勤労者報告を取り巻く経済情勢をとりまとめて発表するもので、今回で15回目となった。本報告書は、当研究所の経済社会研究委員会の議論を踏まえ、当研究所の責任において取りまとめたものである。

---

第Ⅰ部では、最近1年間の内外経済情勢の分析を行った。日本経済は、2000年末以降さらなる厳しい後退局面のなかにあり、戦後最大の危機にあると言っても過言ではない。止まらないデフレ経済と混迷する不良債権処理、長期に及ぶ厳しい雇用環境と失業情勢、更には、世界経済に決定的な影響をもたらすアメリカ経済の不透明感など、景気の現状について検討を加え、深刻な状況からの脱却方法を検討している。

第Ⅱ部では、安心と活力ある将来のための視点として、初めて中国経済とわが国経済との関係について取り上げている。産業の空洞化や国際競争力の問題がわが国経済社会に対して与えている影響について、その基本的な視点から考察した。

つぎに、今年度の経済報告のまとめに変えて、近年のわが国経済の厳しい状況下における労働組合とその課題について検討を行った。連合総研がこれまで蓄積してきた「活力ある安心社会」「福祉経済社会の建設」のために当面何が優先されるべきか、そのための労働組合の課題は何かについて、総括言及した。

---

## 目次

### 第Ⅰ部 自律回復に至らない景気

- 第1章 一時的に底入れした景気
- 第2章 景気底入れをどう評価するか
- 第3章 止まらないデフレ
- 第4章 長期に及ぶ厳しい雇用環境
- 第5章 アメリカ経済は再び強い成長を示せるか
- 第6章 必要な経済政策

### 第Ⅱ部 安心と活力ある将来のための視点

- 第1章 中国の経済発展とその日本への影響
- 第2章 労働組合の視点から見た問題点と課題
  - 仕事と暮らしの安心・安定こそ経済活力の源泉